

第 14 回 大阪府河川周辺地域の環境保全等審議会 議事要旨

開催日時	令和元年 12 月 16 日（月） 13:30～15:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5 階 大会議室
出席者	池委員、上田委員、岡田委員、鶴田委員、布野委員、森下委員、○養父委員、和田委員、渡部委員 計 9 名（欠席：竹林委員） （○：会長、敬称略、五十音順）
概 要：	<p>第 8 回及び第 9 回環境改善放流検討部会で審議した結果（「貯水池水質予測及び水質保全方策の見直し」、「環境改善放流計画（フラッシュ放流計画）」）について報告した。このうち第 13 回審議会において諮問した「安威川ダム貯水池水質予測及び水質保全方策の見直しについて」は、答申が事務局作成の原案で承認された。</p> <p>また、「試験湛水・ダム供用後における環境調査計画」、「令和元年度調査」の中間報告を行った。</p> <p>【資料 1】環境保全等審議会スケジュールおよび審議概要について</p> <ul style="list-style-type: none">・資料 1 についての委員の主な発言は以下のとおり。 特になし <p>【資料 2】貯水池の水質予測及び水質保全方策の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none">・資料 4 についての委員の主な発言は以下のとおり。 渡部委員<ul style="list-style-type: none">・ダム供用により SS 濃度が低くなり影響が小さいとしているが、SS が減少することによる影響も想定されるのではないか。森下委員<ul style="list-style-type: none">・出水により産卵行動が発現する種がいるなど、必ずしも水がきれいな方が良いわけではない。フラッシュ放流で対応するという考えか。布野委員<ul style="list-style-type: none">・ダム供用後の SS が供用前よりも 1/3 程度の濃度になるということは、下流の栄養塩となる窒素、リンなども減少するのではないか。 <p>【資料 3】環境改善放流計画（フラッシュ放流計画）について</p> <ul style="list-style-type: none">・資料 3 についての委員の主な発言は以下のとおり。 布野委員<ul style="list-style-type: none">・4 月や 7 月の最大流量のフラッシュ放流は、実績と比較し、同程度の流量としてはどうか。和田委員<ul style="list-style-type: none">・4 月のフラッシュ放流の実施は慎重に判断していただきたい。また、実施した場合は下流河川のモニタリングを実施してほしい。

開催日時	令和元年 12 月 16 日（月） 13:30～15:30
開催場所	大阪府安威川ダム建設事務所 5階 大会議室
出席者	池委員、上田委員、岡田委員、鶴田委員、布野委員、森下委員、○養父委員、和田委員、渡部委員 計 9 名（欠席：竹林委員） （○：会長、敬称略、五十音順）

【資料 4】試験湛水・ダム供用後における環境調査計画について（中間報告）

- ・資料 4 についての委員の主な発言は以下のとおり。

森下委員

- ・ダム供用後の調査は、2 年程度では短いのではないか。

鶴田委員

- ・試験湛水時に通常湛水しない範囲について、水生生物の調査も必要ではないか。

池委員

- ・試験湛水中の水位上昇時は貯留するため、下流の流況が変化することから、下流河川の調査が必要ではないか。

上田委員

- ・ダム完成後に魚類等の調査を実施するという事は、侵入が懸念される外来種対応も実施するという事か。

【資料 5】令和元年度調査の中間報告について

- ・資料 5 についての委員の主な発言は以下のとおり。

布野委員

- ・工事区域近傍で希少猛禽類が繁殖する可能性があるため、引き続きモニタリング調査を実施し、営巣が確認された場合には報告していただきたい。

岡田委員

- ・繁殖期でも繁殖雄個体以外の動きが少ないのは、普通ではない。

和田委員

- ・これまでの確認状況を提示するとともに、調査を速やかに実施してほしい。

【傍聴者からの意見】

特になし